

【保存版】 清瀬特別支援学校において出席停止となる感染症



* 第1種学校感染症 治癒するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、天然痘、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ

* 第2種学校感染症 “飛沫する感染症。幼児・児童・生徒のり患が多く、学校において流行を広げる可能性が高いもの”

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	感染経路 感染期間
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。	悪寒・高熱・頭痛・全身倦怠感・腰痛・咽頭痛・咳・鼻汁・嘔吐・下痢など。	1～4日	発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで
新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで	発熱・咽頭痛・咳など	発症の2日前から発症後7～10日間程度	接触感染 飛沫感染
百日咳	特有の咳が消失するまで 又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。	コンコンと連続して咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて急いで息を吸うような、特有の咳発作が特徴である。	主に7～10日	咳が出現してから4週間頃まで
麻疹	解熱した後3日を経過するまで。	発熱、咳やくしゃみなどの呼吸器症状と特有な発疹の出る感染力の強い疾患である。眼の充血やめやにが見られることもある。頬の内側にできる白いコプリック斑が特徴。熱が一旦下がりかけ、再び高熱が出てきたときに赤い発しんが出る。	主に8～12日	発熱出現1～2日前から発しん出現4日目頃まで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現したあと5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。	通常は、両側または片側の耳下腺の腫れと微熱程度。下顎腺などが腫れることもある。	主に16～18日	耳下腺などが腫れる1～2日前から、腫脹5日後まで
風しん (3日はしか)	発しんが消失するまで。	発熱とほぼ同時に発しんが現れ、3～5日ほどで解熱、発しんが消失する。耳の後ろ、首、わきの下のリンパ節が腫れる。	主に16～18日	発しんの出る7日前から出た後7日間
水痘 (みずぼうそう)	すべての発しんがかさぶたになるまで。	体中に小さな紅い発しんが出て、半日～1日後に水疱となる。その後1～3日で黒いかさぶたとなり、すべての水疱がかさぶたになるまでに約1週間かかる。	2～3週間	発しんのでる1日前から全ての発しんがかさぶたとなるまで。
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで。	発熱・のどの痛み・結膜炎・首のリンパ節の腫れなど。	2～14日	発病後4週間
結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	初期は自覚症状なし。X線で発見されることが多い。疲労感・寝汗・微熱・体重減少・肩こり・咳・たん。	2年以内	なし
髄膜炎菌性髄膜炎	発熱・頭痛・嘔吐・意識障害	頭痛・発熱・痙攣・意識障害	2～4日	なし

*第3種学校感染症 “学校において流行を広げる可能性があるもの”

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	感染経路 感染期間
コレラ、細菌性赤痢	病状により学校医その他の 医師において伝染のおそれ がないと認めるまで。	発熱、腹痛、嘔吐、下痢	1～3日	
腸チフス、パラチフス		持続する発熱、発疹など	7～14日	
流行性角結膜炎		結膜充血、まぶたの腫脹、異物感、流涙、目やに、発熱など	2～14日	発病後2～4週
急性出血性結膜炎		結膜出血、結膜充血、まぶたの腫脹、異物感	1～3日	発病後5～7日
腸管出血性 大腸菌感染症		激しい腹痛で始まり、数時間後に水様性の下痢を起こす。嘔吐、吐き気がある。	10時間～6日	

*その他の感染症 “医師の判断によっては出席停止の必要のあるもの”

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	感染経路 感染期間
溶連菌感染症	治療開始後24時間を経過して全身症状がよければ登校可能。	高熱、扁桃の発赤・腫れ、発疹など	2～5日間	飛沫感染・接触感染 抗菌薬療法にて24時間以内に感染力は失せる
帯状疱疹	疱疹の状態により医師の判断が必要。	片側性に水疱、かゆみを伴うことがある。	なし	接触感染・飛沫感染
手足口病	医師の判断による。	発熱、口腔・咽頭に水疱、手足や肘、膝、おしりなどに水疱など	3～6日	飛沫感染・接触感染・経口感染
マイコプラズマ感染症		咳、発熱、頭痛など	2～3週間	飛沫感染
ヘルパンギーナ		高熱、咽頭痛、咽頭に水疱など	3～6日	飛沫感染・接触感染
感染性胃腸炎(ノロウイルス・ロタウイルスなど)		嘔吐、下痢など	ノロ： 12～48時間 ロタ：1～3日	経口感染・接触感染・飛沫感染
RSウイルス感染症		発熱、喘鳴など	2～8日	飛沫感染・接触感染
伝染性紅斑(リンゴ病)		微熱や風邪症状の後に紅斑が出現する。	4～14日	飛沫感染
伝染性軟属腫(水いぼ)		水疱のないぼが出現しかゆみ症状を伴うことがある。	2～7週間	接触感染
伝染性膿痂疹(とびひ)		透明の水疱が白く濁っていく。水疱は破れやすくかゆみ症状を伴う。	2～10日	接触感染
アタマジラミ	無症状であるが吸血された頭皮がかゆくなる可能性がある	10～14日	接触感染	

その他の感染症で、学校活動において流行を広げる可能性がある感染症は医師の判断で出席停止となるものがあります。診断を受けた時点で医師の指示を仰いでください。